

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：24302

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653153

研究課題名(和文)物質使用障害治療のエビデンスに基づく家族支援のあり方についての研究

研究課題名(英文)Social work support program for the families of substance use disorders based on EBM

研究代表者

山野 尚美(YAMANO, NAOMI)

京都府立大学・公共政策学部・准教授

研究者番号：90268748

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：物質使用障害の治療において、家族の対応が断薬開始や継続に及ぼす効果に関するエビデンスのレビューを行った。家族への介入は、物質使用障害の標準化された治療の一環として定式化されたものとしては、確認することができなかった。その一方で、家族への介入が断薬の成否に与える影響に関する研究は、青少年の非行問題への対策の一環として確認された。これらの結果と精神保健福祉センターおよび保護観察所における薬物使用者の家族に対する相談・支援状況を踏まえて、従来、不明瞭になりがちであった、家族が獲得すべき知識・情報を明確化した上で、物質使用者の家族を対象とするソーシャルワークを基盤とする相談・支援モデルの提示を行った。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to confirm the effect of family attitude on the recovery from substance use disorders. Using review databases, it is found that the family intervention is not a required clinical protocol in the clinical guideline. But the effect of family attitude and involvement was mentioned in some research on the treatment for young people with drug use and other criminal problems. Based on these results, a support program for the families of adult drug users, not from a view of point of treatment for the drug users but of support for the families who are suffered from the drug use related problem.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：social work family support adult drug user substance use disorder drug dependence  
drug abuse addiction adult patient

## 1. 研究開始当初の背景

近年、薬物関連事犯の増加に伴い、この問題について犯罪という側面だけでなく、物質使用障害という疾病の側面に対しても目が向けられるようになりつつある。その視点は平成 20 年に示された「第三次薬物乱用防止五か年戦略」の中にも表されており、「断薬とその継続」という支援課題の達成に向けて、司法と医療の連携のあり方を模索する上で重要な役割を果たすものであると考えられる。しかしこの中の、「早期の回復のためには、家族による薬物乱用者への適切な対応が重要である。家族が薬物依存症に関する知識を得て、適切な対応を学ぶ必要がある。」との記述については、次のような問題点を指摘せざるを得ない、まず、この記述は、再発は家族の対応により大きく左右されるものであるかのように理解されるおそれがあるという点である。そして、薬物の再使用防止についての責任は家族にあるかのような印象を与えるおそれがあるという点である。

物質使用障害は、脳疾患であることが既に明らかにされており、回復のためにまず必要とされるのは医学的治療なのであって、家族の対応のあり方は再発を左右する第一の要因ではない。無論、家族間のコミュニケーション様式等に改善されるべき問題があるようなケースについては、個別にアセスメントした上で、「適切な対応」について提案されることが必要であろう。

とりわけ、物質使用障害者が成人の場合、受診・受療の諾否や断薬の継続というセルフケアについては、原則として本人の自己決定に委ねられるべきであり、薬物使用を再犯、再発のいずれと見なすにかかわらず、その防止責任を家族に対して一律に負わせることが適切であるとは考えにくい

## 2. 研究の目的

「物質使用障害は脳疾患である」(NIDA 2007)という医学的事実と、受診・受療の諾否や断薬の継続等のセルフケアについての患者の自己決定権を踏まえて、物質使用障害者の家族を対象とするエビデンスに基づく相談・支援の具体的なモデルの提示を試みた。

1) これまで不明瞭になりがちであった相談・支援の目的について、「本人をより早期に受診させ、断薬を継続させること(再使用防止)」と「家族自身の心理・社会的困難の軽減」の二軸により整理して、家族の相談・支援の新たな枠組みを構築する。2) 「家族の対応」が本人の治療効果に及ぼす影響についてのエビデンスに基づいて、「家族が学ぶべき知識」についての明確化する。

National Institute on Drug Abuse (2009) Principles of Drug Addiction Treatment: A Research Based Guide. 2nd ed. NIH Publication No. 09-418

## 3. 研究の方法

物質使用障害治療における「家族の対応」の効果に関するエビデンスと、それに基づく物質使用障害者の家族に対する相談・支援の国内外の先行事例について確認するために、文献レビューを行う。検索にあたっては、GATE (Graphical Appraisal Tool for Epidemiology) の枠組みに基づいて、リサーチクエスションを定式化する。

エビデンスが確認された「家族の対応」について、その内容を整理・要約し、類型化を試みる。

国内における物質使用障害者の家族に対する相談・支援の実態把握のために、関連機関を対象とする質問紙調査を実施する。

の結果に基づいて、現行の物質使用障害者の家族に対する相談・支援についての評価検討を行い、「必要のない内容」「追加されるべき内容」等について検討する。

治療エビデンスを反映させた家族の相談・支援について検討し、物質使用障害者の家族の相談・支援の実務にあたる担当者向けの手引きを作成する。

#### 4．研究成果

物質使用障害の治療において、家族の対応が物質使用者の断薬開始または継続に及ぼす効果に関するエビデンスのレビューを行った。今回の調査では、Cochrane Library、PubMed等のデータベースを検索対象としたが、保健・医療機関が、薬物依存の治療・支援におけるいわゆる定式化された対応策として、薬物使用者の家族への介入を位置づけたプログラムを確認することができなかった。その一方で、家族への介入が薬物使用者の断薬の成否に与える影響についての研究は、青少年の非行問題への対策の一環として行われたもののみが確認された。

保健・医療と司法の各実践領域における家族支援の実態把握のために、精神保健福祉センターと保護観察所における、薬物乱用・依存者の家族を対象とした事業等の実施状況についての聞き取りおよび質問紙調査を実施した。さらに、薬物依存者の家族を対象とした聞き取り調査を実施し、その結果に基づいて、家族が求めている情報 薬物依存に関する客観的事実について十分に理解されておらず、理解を促す必要があると考えられる情報について考察した。

これらの研究成果を踏まえて、薬物依存者の家族とりわけ成人した薬物依存者の家族に焦点を当てた、ソーシャルワークの視点からの相談・支援の手引きを作成した。

冊子の特徴としては、薬物依存が精神作用物質の反復的使用によって生じる精神障害であ

ることを重視した、次の点を挙げるができる。薬物依存に関する知識の提供や薬物依存者への対応についての解説等に当たっては、家族の態度・行動と薬物の再使用が過度に関連づけられることがないように配慮されることの必要性を強調していること 初回面接（電話相談を含む）の重要性とその効果的な実施にあたっての支援者自身の物質使用障害（薬物依存・薬物乱用）についての認識に、誤解や偏見がないか十分に自己覚知がなされていることの必要性を指摘していること 家族による薬物依存者に対する適切な対応について教示する際にそれらがあたかも唯一無二のものであるかのような伝え方をしたり、ごく詳細な事柄についてまで「べき・べからず」を示したりすることのリスクについて指摘していること、などである。

#### 5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

Naomi YAMANO. Why is the Support for Parents of Adult Substance Users Necessary in Japan?

Joint World Conference on Social work and Social Development: Action and Impact 8-12 July 2012, Stockholm, Sweden.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

(1)相談・支援者向け冊子の作成

「薬物依存者の家族のための相談・支援  
～支援者向けハンドブック～」

(2)物質使用障害をもつ人の家族を対象とする  
長期支援プログラムの実施

2012年1月31日

(キャンパスプラザ京都・京都市)

2013年2月17日

(キャンパスプラザ京都・京都市)

2014年2月16日

(キャンパスプラザ京都・京都市)

6. 研究組織

(1)研究代表者

山野 尚美 (YAMANO NAOMI)

京都府立大学・公共政策学部・准教授

研究者番号: 90268748

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし